



紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

2



平成29年3月5日に、香川大学教職大学院の平成28年度教職実践研究フォーラムが開催されました。当日は、愛媛、岡山、福岡、山梨、神奈川県等、県外からの参加者12名を含めて、合計86名が集い、盛会に行われました。

全体会では、有馬道久専攻長より、開設の年度にあたり様々な苦労がありながらここまで辿り着いたことや、多くの協力・支援をいただきましたことに対して、感謝の意が伝えられました。続いて、香川県教育委員会義務教育課主任管理主事・三好健浩様よりご挨拶をいただきました。

その後、2つの部会に分かれて短期履修学生制度を活用して、実践研究に取り組んできました12名の院生が発表を行い、活発な質疑応答がなされました。参会者の声として、「一年間でよくここまでまとめているのに驚いた・・・」、「取組を分かりやすく発表してくれたので、学校にも伝えて生かしていきたい・・・」等の声も寄せられました。

平成28年度教職実践研究フォーラム
2017年3月5日 開催



Voice of graduate students

院生の声

修了生の皆さんからの学び

高嶋 修平

修了される皆さん、一年間大変お世話になりました。現職教員の皆さんと学ばせていただいたこの一年間は、私にとって非常に充実したものでした。皆さんから、講義だけでなく院生室や様々な場で、貴重なご経験を通じた上での意見や指導を賜り、教職大学院ならではの学びを得ることができました。さらに、皆さんの教育に懸ける熱い想いに触れ、教職の魅力を再認識すると共に、自身の教職志向も一層高まりました。皆さんから教えていただいた貴重な言葉や指導技術、心がまえ等一つずつ思い出しながら、今後とも努力して参りたいと思います。本当にお世話になり有り難うございました。

教職大学院での新たな学び

中道 昌子

香川大学教職大学院を志望したのは、子ども理解や教科指導等の専門的な知識や技術を学ぶとともに、実習等の実践的な取り組みも重視するカリキュラムに魅力を感じたからです。講義では、自分の考えを発表したり、課題について話し合ったりすることを通して、理論に基づいた実践について学ぶことができました。また、様々な校種のなかまの先生方の考えを聞くことで、物事を幅広い視点から捉えられ、自分の考えを深めることができました。「理論と実践の往還」と言われるように、学び続けることの大切さを改めて感じることができました。自分自身が探求したいことをさらに深めていき、第1期生の先輩の皆様が研究に向き合う姿勢から学んだことを大切にしていきたいと思っています。

この一年で得た学びを宝に、次の一步

池田 葉月

教職大学院に入学してから、あっという間に一年が経ちました。私たち3名の学部卒の院生に比べて、現職派遣教員の院生が多かったのですが、そのことが大きな出会いと刺激になりました。本当に熱意溢れる現職の先生方に様々な刺激を受け、今までになかった充実した一年間を送ることができました。また、教職大学院の特色である「二年間を通じて行う実習」のうち附属学校で行う実習が終了しました。年間を通じて、子どもたちの成長を実感するとともに、自らの成長の一步を僅かながら感じることもできました。授業実践では、院生さんや担当の田崎先生や附属学校の清水先生をはじめ多くの先生方からご指導をいただき、よりよい授業づくりに挑戦してきました。

この大学院での学びや出会いは、私にとって一生の宝物となっています。今までとこれからを大切に、大学院二年次も頑張っていきたいと思っています。



院生の取組を紹介し ます

多くの院生が日本教育心理学会、日本カリキュラム学会、日本LD学会、日本特殊教育学会、日本UD学会、日本道德教育学会四国支部学習会、四国英語教育学会等に参加して、様々な出会いと新たな知見を得て、自らの実践研究への示唆を得ることができました。また、テーマ発表やポスター発表等を経験した院生も貴重な刺激となったようです。一部ですが紹介します。

全国英語教育学会でポスター発表 大西 範英



8月20日、21日に全国英語教育学会第42回埼玉研究大会でポスター発表を行いました。私の研究テーマである「中学校における『英語で授業』実践研究」についての中間発表としても有意義な経験でした。とても多くの方に見聞きしていただき、貴重なご意見を得ることができました。さらに、英語教育の研究をしている先生方との多くの出会いがありました。さまざまな意見を交わすなかで痛感したことは、全国には自分のテーマと近いテーマで研究をしている先生方がいて、同じようなことで悩んだり、一生懸命に工夫をしたりして、努力を積み重ねているということです。今回の学会に参加することで、多くのアドバイスをいただき、改善の視点を教えていただくこともできました。これからも「出会い」を大切に、努力を重ね、「分かる授業」を作り上げていきたいと思えます。

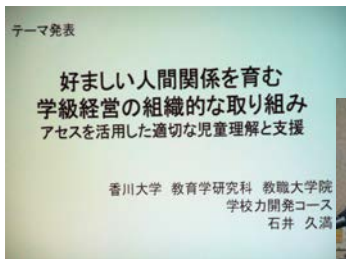


日本教職大学院協会研究大会でポスター発表 原 洋子

12月に東京で開催された「日本教職大学院協会研究大会」において、「ポスターセッション」で発表を行いました。教職大学院での道德に関する学びや置籍校での役割演技を活用した実践的な取組を中心にまとめました。また、香川大学教職大学院と香川県教育センターとの連携による「かがわ道德ラボ」に参加して学んだことも紹介しました。道德の教科化に向けて、授業改善を目的として、自分自身が実践してきたことを振り返る大変よい機会となりました。また、他大学の先生方や大学院生の方が、役割演技に興味をもち、多くの質問を受けたことで、研究の不十分なところやこれから取り組まなければならない部分が意識できました。全国の教職大学院の大学院生が集まったポスター発表の場であり、それぞれが学校課題に対して、自ら課題意識をもち追究し考察し説明している様子から、学び続ける教師としての姿に刺激を受けました。



日本生徒指導学会四国地区研究会でテーマ発表 石井 久満



平成29年2月11日に高知大学で第15回日本生徒指導学会四国地区研究会が開催されました。その場で、学級経営の組織的な取組について、「好ましい人間関係を育む学級経営の組織的な取り組みーアセスを活用した適切な児童理解と支援ー」と題してテーマ発表をする機会を得ました。当日は、発表が40分で質疑応答が10分あり、大きく次の3点について質問を受けました。ソーシャルスキルと授業への生かし方等について、香川県で取り組んでいる大主題構想について、アセスの取組について、でした。何よりも、自分が取り組んでいることを正確に相手に伝えることの難しさを痛感しました。自分自身を見つめ直す大変よい機会となり、多くの出会いがあったことを嬉しく思います。